

2025 .01.19

『島ラボ in 北木島』 第1期終了記念企画 ツアープランのご説明

ふるさと 畑中平之丞 & 「豊浦の人々」を訪ねて



産業観光コーディネーター 赤澤 雅弘

実施時期 令和7年4月～6月にかけて2回程度を検討中

募集定員 各回10名程度

【目的】

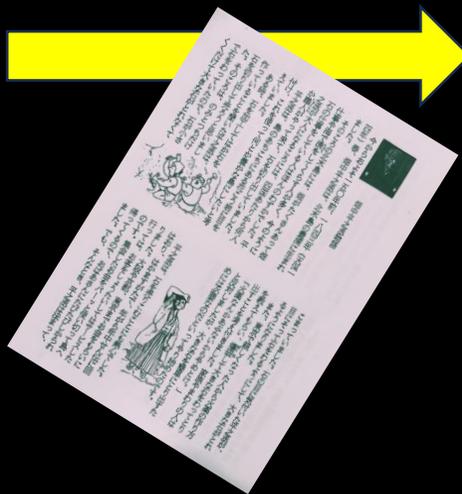
- ・ 「豊浦」を知ってもらい、好きになってもらい、応援者になってもらう
- ・ 受入れ側が消費されない、疲れない、自前の観光コンテンツを確立
- ・ 豊浦のみなさんに交流を楽しんでもらう
- ・ ひとりひとりのヒストリーを「豊浦の宝」として島ラボで共有・蓄積
- ・ (将来的には) 塾生のプラン実践の場としてもツアーを活用

集合／伏越港



A案＝ 8:15 伏越 発

B案＝ 9:25 伏越 発



A案＝ 9:22 金風呂 着

B案＝ 10:35 金風呂 着

集合時に参加者へ『畑中平之丞物語』を配布
島到着までに目を通してもらい、ツアーへの期待感をつくる

1. 「知る」(光劇場)



映像作家・吉川くんが制作したムービー作品を鑑賞。
まずは石の島・北木の歴史・文化や暮らしについて学んで、つかみはOK！

2. 「なごむ」(島カフェ)

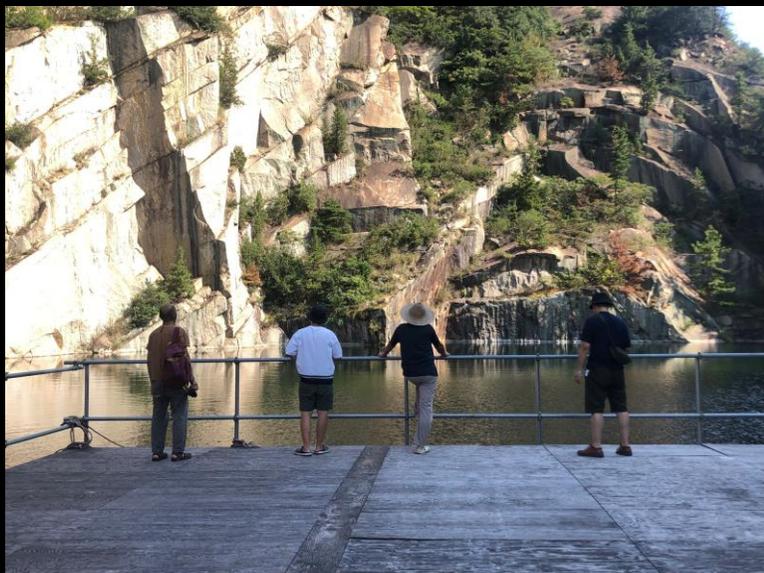


馬越さん



映像鑑賞後、島カフェで馬越さんから光劇場リノベーションにまつわるお話や最近の受入れ状況などについてうかがいます。

3. 石を「感じる」(金風呂～千ノ浜 日本遺産さんぽ)



午後の行程



ふるさと 畑中平之丞 & 「豊浦の人々」を訪ねる

豊浦に暮らすみなさんのお宅をリレー方式で訪問。
それぞれのファミリーストーリーや石材産業にまつわる思い出などをうかがいます。

「旧北木郵便局」と旧局長宿舎

平之丞の尽力により明治32年(1899)開設。
自宅の蔵を活用したもので、平之丞は初代局長をつとめました。



岡本局長は11代目



畑中平之丞さんのお家



いくよさん & 修輔さん



平之丞スピリットを受け継ぐ畑中家のファミリーヒストリーを聞く

草花を愛する婦人会長は、島の天才脚本家



ようこさん



さすらいの凄腕石工、水野さんの夫婦話



水野さんご夫妻



縁あって鹿児島から北木島へ 庭先から仰ぎ見る“夫婦丁場”の跡



いくこさん

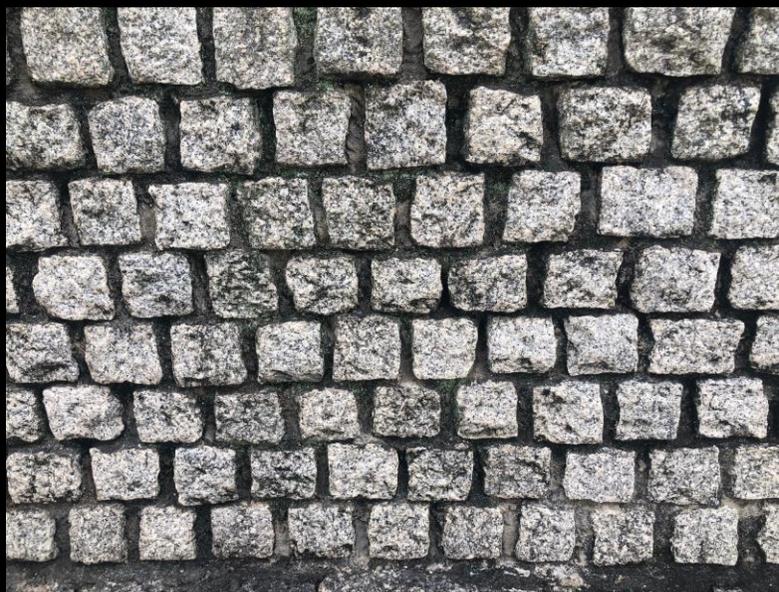


【宮本常一のことば】（1）～昭和32年北木島を訪問した際の思い出

石切り場で働いている人たちはみな人なつつこくて、
話しこむと、
仕事をやめて自分の家へ連れて行って、
お茶など振る舞ってくれて話をしてくれたものである。

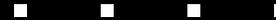
—『私の日本地図12 瀬戸内海Ⅳ』
備讃の瀬戸付近 16.北木島 より引用

豊浦の人と人をつなぐのは、「ピンコロ」のある風景。



ふるさと

暮らす人の数だけ、「豊浦の人々」の物語があります。



ふれあう



ぜんざい(例)をいただきながら、
ツアー参加者と地域のみなさんとが和気あいあい、なごやかな交流タイム。

つながる想い



かさおか島づくり海社・鳴本理事長からのメッセージで、ツアーの1日をしめくる

16:26 豊浦港 発 (17:26 伏越港 着)



豊浦のみなさんのご協力、よろしくお願いいたします。

【宮本常一のことば】（2）～昭和37年北木島を再訪した際の考察

島は島として生きているのである。

そして時代時代の波をうけとめている。

島民の多くが島に踏みとどまって生きついでいる島では、
時代の波を受け入れる力を持っているようである。

—『私の日本地図12 瀬戸内海Ⅳ』
備讃の瀬戸付近 16.北木島 より引用